

四国農学連報

第 18 号

発 行 者
四国地区農業大学校
学 生 連 盟
編 集

徳島県立農林水産総合技術センター
農業大学校学生自治会
徳島県名西郡石井町石井 2202-1

徳島農大での二年間

四国地区農業大学校学生連盟会長
徳島県立農林水産総合技術センター
農業大学校学生自治会長

川 添 修 介



徳島農大に入学
してからの時間は
あつという間に過
ぎていきました。

私の家は専業農家でサツマイモやレンコンなどを作っています。しかし高校二年生の頃までは農業をしたとは思っておらず普通科の高校に通いながら、工業系の大学進学を目指していました。

私が農業をやりたいと思ったきっかけは高校三年生になり、将来のことを考えた時に農業の方がおもしろそうだと思ったことでした。それからは農業系の大学進学を目指したのですが、徳島県には農業を学べる大学が無く、方向転換する時期が遅く農業系行くなら選ぶ生物の教科を選択していなかったため徳島で農業を学ぶなら農業大学校があるということによって農業大学校に進学することを選びました。

農業大学校に進むと最初はまわりが農業高校出身の人が多くてあまり話についていけなかったが最初の全寮期間の寮での生活や農業の実習を通して仲間となつていき投票によって自治会役員に選出されました。

自治会役員になって始めの仕事が農大祭でした。会議に参加しても農大に入学して始めて農大に来たのでそれまで



の農大祭に参加したこともなかったのだから、分らないことばかりで先輩について行ったり、教えてもらったりしてました。それで無事に1年の農大祭を終えることができたのですが、すぐ次の自治会行事である収穫祭から1年生中心で企画、運営していかなければいけなかったのでも大変でした。収穫祭はうまくいきましたが卒業祝賀会はあまりうまくいかず少し先が不安になりました。次の自治会での行事は3月11日に起きた東日本大震災の募金活動と自治会総会並びに同じ日に行う新入生歓迎会についてと当番県として四国農学連スポーツ大会を企画、運営していかなければならなかったの、その1ヶ月後にある農大祭についても早めに考えていかなければならなかったの、それがたくさん自治会長に選ばれたためとめていかなければいけなかったの、さらに大変でした。自治会総会、新入生歓迎会が終わり本格的に四国農学連スポーツ大会に取り組んでいきましたが、大会ではリハール不足によるもたつきもあつたし会長挨拶も覚えきれずカンペを見ながらだったので迷惑もかけてしまいさらにあいにくの天候で残念だったが個人的にはキャプテンでピッチャーとして参加した野球につきもあり優勝できたのはよかったです。

でもスポーツ大会が終わっても一息つけず、1ヶ月後に迫つた2年生中心で最後の企画である農大祭の準備に追われました。昨年度できた模擬会社との兼ね合いも本格的に一緒にやる1年目だったため

0から考えてやっていかなければいけなかったの、大分悩まされました。農大祭当日も二日も天候が悪い最悪のコンディションだった何が何と無事に終えることができました。大分頑張つたので一時は無気力になったりもしたけど普段の授業ではできない経験ができたので自治会活動は自分にとっていい勉強ができたのではないかと思います。



今はレンコンを題材に行っている卒業論文を頑張っているの、将来農業を継いでいけるような知識しっかりと持って活かしていきたいです。

今までお世話になった先生や先輩、一緒に悩み、時に助けてくれた友達、本当に感謝しています。ありがとうございます。

新たな時代の担い手として 地域農業のさらなる発展を

徳島県立農林水産
総合技術支援センター農業大学校

校長 安 岡 道 博



未曾有の東日本大震災からやがて1年が来ようとしています。千年に一度といわれるこの大災害が、われわれ日本人にもたらした影響は、経済や物質面のみならず、精神的な面でもおおきなことがあります。また「絆」という言葉に代表される人と人のつながりがいかに大切かを再認識させてくれました。世界中から称賛された、互いを助け合う精神、我欲に走らず分かち合う心をもつことの素晴らしさを知らしめました。これらのメンタリティ（精神性）は、東北の人々のみならず日本人が古代といわれる昔から農村社会で営々と育み、受け継いできた事柄だったからではないかと考えます。かつて農村社会では、互いに協力なしではなりたちませんでした。荒れ地を開墾し水路をひき石垣を築き耕し稲を

植えるといったことを3千年以上続けてきたのです。このなかで形成された助け合うといったよき精神は、震災という困難で顕在化したといえます。この震災は、人々の価値観の転換を生むきっかけをもたらしたのではないかと思われます。農における価値観の変化もおこってきています。

今、戦後から一貫してきた経済至上主義、経済合理主義が見直されてきています。右肩上がりの経済も終焉をむかえ、閉塞感を抱えながらも新たな社会構造、産業の在りようが芽吹きつつあるのではないのでしょうか。我々の関係する農業においてもその動きが始まっていると思えます。それは、多様化、多角化の進展といった形で表れてきています。

TPPに代表される貿易の自由化、グローバル化によって、日本農業は大きく影響を受けざるを得ません。安価な農産物が多量に輸入される状況が懸念されています。しかし、消費者は農産物に安さのみを求めているわけではありません。「新鮮」「安全」「おいしさ」などといった別の価値をもとめている消費者は、むしろ多数派であろうと想像されます。「地産地消」を推進する農村直売所・直販の隆盛はそれを物語る一端といえましょう。生産者と消費者の距離を近づけ、相互の情報交換により「食」というものが見直されています。

また、より農産物の付加価値の高める6次産業化の動きも見逃せません。

農業と地場産業とを結びつけ新たな商品や特産物を創造し、新たな市場を開拓しようとしています。

流通面でも、IT化によるネット販売などの進化によって、小さなロットでもビジネスがなりたつようになりました。情報の迅速化が新たなビジネスモデルを生んでいます。

これら様々な動きが農業という産業にも大きな転換期をもたらしています。新たな転換期に、最も必要なものはなんでしょうか。資金でしょうか。物資でしょうか。違います。最も必要なものは人財です。新たな発想と情熱と不屈の志をもつ若者です。農業大学校の学生は、農業の変革を起こす人財として大きな期待が寄せられています。それは農業現場の最前線に立ち担い手であるからです。

そのためには、農業技術の習得、研鑽はもちろんですが優れたマネジメント能力を身につけるといふことです。マネジメント能力とは、簿記ができてバランスシートが理解できるという狭義の意味ではありません。仕事を理解し、効率よく人と人を結びつけ、計画的に事業運営し、新たな社会的価値を創造する能力のことです。またリーダーとして組織を動かせる能力を持つことです。

農業大学のプロジェクト学習というカリキュラムは、これらマネジメント能力を高める重要な機会でもあります。真摯に取り組むことによって、自分自身の大きな成果となって帰って

くるものと確信します。

農業大学の2年間は、非常に早く過ぎると多くの学生が述べています。学生の皆さんが目標を持ち、将来の夢にむかつて自分を高めていってほしいと願っています。

中央集権から地方分権社会に変わろうとするうねりのなか、農業・農村の果たす役割は食料供給面のみならず、環境の保全、文化の継承など多様なことが期待されています。それらの役割を支え力強く発展させてくれる、農業大生であって欲しいと思います。5年後10年後の諸君らの活躍を祈念しております。

私と農業

愛媛県立農業大学校
総合農学科一年 果樹コース

岡 俊 行



私は、農業の面白味を知るために愛媛県立農業大学校に入学しました。私の実家は柑橘農家で、将来は農業を継ぐことを考えていますが、私が農業に必死に取り組み始めたのはごく最近のことで、時々、農業が嫌いだった頃の気持ちをもた思ひ出すのではないかと不安になることもあります。

我が家の果樹園は、私の家の真ん前にあり、幼い頃は弟や友達とよく樹園地で遊んでいましたが、小学生の頃に無理矢理山に連れていかれることもあり、あまり農業が好きになれませんでした。

そんな私が農業に関心を持つようになったのは中学校で農業体験をからです。学校で管理している柑橘を生徒が栽培するもので、地域の農家の協力のもとで年に数回に渡って農業体験をしました。その当時も農業は好きでなく、授業に集中しようとしていませんでした。しかし、季節ごとに異なった作業を体験することにより、以前まで感じていた農業とは違う印象を受け、色々な作業をするうちに農業に対する見方が変わっていききました。農業体験が終わってからでも農業に関心を持つようになり、家での農作業も積極的に取り組むようになりました。それから生活では農業に携わる機会が増え、年を重ねる毎に私は農業が好きになりました。私はその気持ちを維持し続けるためにも、農大で日々勉強に励んでいます。

元々、私がこの学校を選んだ理由は、実習の授業時間が非常に多く、実践的な技術を覚えることができるからです。農業は座学も大事ですが実践的な作業をしないと身に付かないもので、頭の中で理解していても作業中に間違いを起こすこともあります。果樹は植物ですが人間と同じで生き物です。順調に見えてもあることを境に成

長が悪くなり栽培が難しくなることもあるなど常に変化しています。そのようなことに対応するためにも、実習を重視した授業で勉強しようと思ひ、私は農大に通うことを決めました。



農大では特に果樹について多くのことを勉強したいと考えています。果樹コースでは柑橘のほかに、桃・キウイ・ブドウ・梨なども育てているため、自分が将来栽培したい作物以外の実習も体験できます。もし、就農後の柑橘作りに余裕ができ、他の果樹を育てたいと思つた時のことを考えると、その時に時間を割いて勉強を始めるのではなく、時間のある今、体験して学んだほうがよいと思うので、自分が専門としていた柑橘以外の果樹栽培にも積極

的に、取り組みたいと考えています。また、農大では土壌や経営・法律など農業全般の知識を学ぶことができ、将来は自分だけで柑橘を育てることになるので、その時に少しでも役立つ知識や技術を習得していたら、もっと楽に農業ができると思うので、少しでも多くの知識を身に付けたいと思います。

私は将来、親が続けている柑橘栽培を継ごうと考えています。そのためには今よりも多くの知識と技術を習得しなければなりません。農大で勉強できる時間は短くあと一年、アグリビジネス科に進学すればあと三年勉強できますが、いずれにしても効率の良い勉強をしなければとても身に付きません。そのため、これからできる限りの時間を有効に利用して農業に尽力していきます。

農大の畜産を専攻して

愛媛県立農業大学校
総合農学科一年 畜産コース

菅 昭 頼

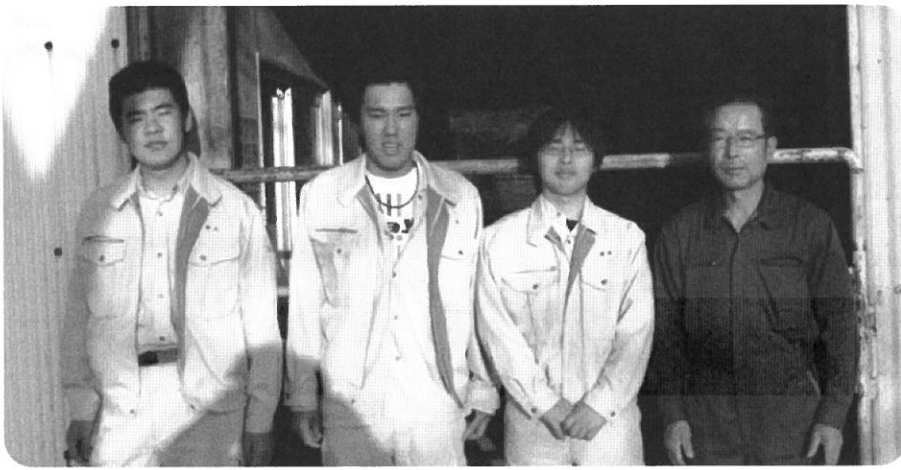


私は、愛媛県立農業大学校で畜産を専攻しています。専攻した理由は、卒業後畜産に関する職業に就きたいこ

とと、動物の世話をするのが大好きなことがあげられます。農大では、一年のある時期から農産園芸、果樹、畜産の三つのコースに分かれて専門的な学習を受けます。その中でも畜産は、野村にある畜産研究センターで授業を受けます。研究センターには、豚、乳牛、肉牛が飼育されており、それぞれの管理実習と専門科目を五日間、自啓寮という寮に泊まりながら学習しています。野村までの移動にはバスで二時間程かかり、出発する際は朝早くに起床して身支度をします。そして、到着した時にまずやることは、お世話になる職員や指導員さんに挨拶をすることです。皆さんには大変感謝しています。実習は九時三〇分から授業、または実習が始まります。

養豚の実習では、除糞と育成豚の体重測定、移動などです。豚を飼育する時に最も重要なことの一つに、集めた排泄物の処理があります。研究センターでは、豚の性格的特性を理解した上で、餌場の後方に水飲み場を設けます。そうすることで、そこをトイレだと認識させます。その付近はスノコで、落ちた排泄物は機械で集め、指定された場所へ堆肥化することで公害問題を発生することなく、飼育管理ができます。給餌にもワイヤーとパイプを用いた設備を取り入れており、効率化を図っています。

乳牛の実習では、除糞、乾草等の給餌、準備、搾乳時の乳牛の移動と搾乳の補助をしています。搾乳される乳



牛はストレスの軽減等のため、搾乳されるスペースとは別に広い運動場を設け、そこでは干し草を食べていたり、寝ていたりとのんびりと過ごせるようにしています。乳牛は頭がよく、搾乳と給餌の時間を覚えていくため、大半の乳牛は素直に移動してくれます。しかし、高齢の牛等は動き出しても立ち止まったりするので、人が牛を誘導して移

動します。搾乳牛舎は乳牛を入れる前には、あらかじめ掃除しておき、サイレージ等の給餌をしておきます。乳牛が移動し終わると、運動場の除糞に移ります。尿で汚れたおがくずを重機で取り去り、飛び散った糞を除糞します。除糞が終わってきれいになった運動場は清潔なおがくずがひかれ、搾乳を終えた乳牛が休める場所となります。搾乳の時には乳の掃除と、前搾りまでをやらせてもらっています。

最後に、肉牛である和牛の実習は給餌と除糞この二つに絞られます。まず二手に分かれて二棟の牛舎の除糞を行います。研究センターの和牛飼育は大規模ではないものの、テイラーに満タンになるほどの糞尿が出ます。そして、給餌では一〇キロから二〇キロもの乾草と飼料を食べるので、給餌の際はもちろん、準備の時も大変です。出荷前の牛については、少しでも価値を上げるために、その牛を洗ったりもします。定期的に体重測定や、削蹄も行います。

今は本格的に肉牛や養豚、酪農の専攻に分かれていないため、ローテーションで実習をしています。私が二年生になったら、肉牛を専攻しようと思っています。和牛について学び、将来は農協に入って畜産の指導を行いたいと思っています。その目標のために精一杯知識を吸収し、自分のものにしていきます。

農業大好き

愛媛県立農業大学校
総合農学科一年 農産園芸コース

仲島 季里乃



私が愛媛県立農業大学校に入学してからはや一年が経とうとしています。寮生活や実習にも慣れ、入学当初にはなかった余裕も始め、充実した毎日を過ごすことができるようになりました。

本校に入学したきっかけは、高校三年生の課題研究で取り組んだ「園芸セラピー」にあります。認知症の高齢者を対象に、草花や野菜を栽培しました。土に触れたり、植物が発芽・成長することにより、高齢者の方々に感動や喜びを味わってもらうことができました。その結果、農業は私たち人間の日々の生活に潤いや生きる力を与えてくれるものであり、農業が秘めている可能性をもつと感じてみたいと思ったのと、農業に対する自分の考えや知識を深め、それを多くの人に伝えていきたいと思ったのがきっかけです。

六月に行った北海道実習では、愛媛とのスケールの違いや環境の違いに圧倒されました。私の受入れ農家



さんは酪農専業で、朝五時から作業でした。糞処理や搾乳、給餌などが中心作業でした。初めて行う作業ばかりで、大きな乳牛を前に不安ばかりが募っていきましたが、一度慣れるとどういったこともなく着々と作業を進めることが出来ました。北海道で学んだことは、どんな小さなことでも責任を持ち最後までやり遂げることの大切さであり、また命の重さ、人のなげない暖かさなどにつ

いても深く考えさせられ、大きな財産となりました。

十月に行われた四国大会の意見発表会では、愛媛代表として「園芸セラピー」での体験を発表し、全国大会の四国代表に選ばれました。またスポーツ大会では、選手としてバレーボールに出場し、先輩方の活躍もあつて準優勝することができ、農大生活においての一番の思い出となりました。なお、全国の意見発表大会では四国の名に恥じないよう精一杯頑張りたいと思っています。

十一月に行われた収穫祭では、野菜の即売を担当し、毎年どうしても売れ残ってしまう野菜をどうにかして完売させたいと思い、レシピを作成し配布しました。そのおかげもあつて昨年よりも多く売上げることができました。ただ完売とはいきませんでしたので、もつともつとアイディアを出して、来年こそは完売させたいと思っています。

私は来年度の学生自治会長になりたいと思っています。来年は愛媛県が四国農学連の担当校になるということもあり、よりレベルの高い学校にするためにも誰かが動かなければ始まりません。そんな大きな役目がまだまだ未熟な私に出来るかどうかは分かりませんが、もしまえの明るさと元氣と四国代表という経験を生かし、精一杯頑張りたいと思っています。

卒業後は、農業高校の実習助手に

なりたいたいと思っています。農業のあたりがたみや人が生きていく上でどれほど大切か、農業が秘める可能性などを若い人たちに伝えていき、農業が今以上にもつと盛んになるように小さな力を大きな力に変えるため、まずは日々の学校生活から見直していき、努力を惜しまず頑張りたいです。農業大好き!!!

農大で学んだ思い出

愛媛県立農業大学校
総合農学科二年 農産園芸コース

渡部 英之



私が農業大学校に入学してはや二年が経ち、振り返るとたくさんのお事柄や経験が思い出されます。その中で、私の心に残る経験が四つあります。

一つ目は、一年生時に行われた北海道実習です。この実習は四十年以上も続いている愛媛農大にしかない体験実習です。一年生が二班に別れて六月と九月に十四日間、北海道別市の農家に泊り込みで実践的な農業を体験する実習です。この年は全国的に大きな問題となった口蹄疫の関係で、六月に予定されていた実習が中止され、まとめて九月に実習期間

も十日間に短縮して実施されることになりました。私は五十嵐さん宅にお世話になり、毎日六時から十八時までカボチャの収穫や加工品を作る作業で、最初は苦痛でしたが、慣れてくると作業が楽しくなりしました。また、不安だった受入れ農家との生活も暖かく迎えていただき、家族のように接してもらったことで不安も次第に消し去ることができ、最終日には別れを惜しむほど親しくなりました。この貴重な体験を今後の自分の力にしていきたいと思います。



二つ目は、プロジェクト活動を通じた実習です。私は、一年生の七月

から農産園芸コースで野菜を専攻し、実習ではいろいろな品目を栽培し、貴重な経験をすることができました。そして、病害虫に興味があったため、二年生ではキュウリのネコブセンチュウ対策をテーマにプロジェクト活動を行いました。先生や友人の協力を得て自分で試験区を設定し、夏休み期間中もほぼ毎日通い生育収穫調査・管理を行いました。栽培期間中は大変な作業でしたが、最終的には自分の望むものができ、また一年生時に比べ熱心に実習に取り組んだことで、農業の厳しさを身をもって体験することができました。

三つ目は校内球技大会です。今年、は学生自治会長として企画、準備、進行と裏方に徹することが多く、思った以上に事前準備が大変で大事なことだと知ることができました。準備もたくさんさんの友人が協力してくれた結果、先生や学生全員が楽しく親睦を深めることができた一日となりました。

四つ目は、一番心に残っている秋の収穫祭です。収穫祭は自分達が育てた農産物の即売、バザー、もちつき、芋掘り、みかん摘み体験等を通して地域の人たちと触れ合うことのできる校内で一番大きな行事です。当日、私は学生自治会が主催する子ども達を対象にした輪投げやスタンプラリーのコーナーを担当しました。景品の袋詰め、輪投げの準備と忙しく大変な思いをしましたが、子ども達

の楽しそうな顔を見ると苦勞も吹き飛びました。また、本部席でいろいろな人と話をすることができ、笑顔で帰る人ばかりで嬉しく、学校全体で協力し作り上げた成果だと達成感で満ちあふれました。

この二年間の短い間にたくさん経験を得ることができました。特に二年生では学生自治会長となり自分を中心となって学校行事を行い、その内容は一年生の時に見て感じたものとは違い、予想以上に大変なものでした。しかし、自治会長としての役割をやりとげることができたのは、家族、先生、友人、先輩、後輩の支えがあったからこそ出来たことです。この貴重な経験を生かし、今後何事にも挑戦する気持ちを忘れず、これからの将来に向け頑張っていきたいです。

農大での一年間

高知県立農業大学校
園芸学科花き専攻 一年

西 森 康 隆



私にとっての農業大学校とは、とても良い学校生活を送れていると思う。入学したころは、高校の友達が

誰一人いなかっただので、友達が出来るかどうか心配でした。また、農業大学校は、全寮制なので、上手く一年間やっていけるか、相部屋の人と仲良くやっていけるかなど、当初は色々心配なことたくさんありました。けれど、月を重ねていくたびに、相部屋の人とも仲良くなり、また、多くの友達が出来ました。色々合った学校行事で、思いでもたくさん出来ましたが特に、思い出に残っているのは、「よさこい祭り」と「農大祭」です。よさこいは、強制参加だったので、最初はやる気がなく、踊りたくないと思いました。しかし、「よさこい祭り」は、とても有名であり、生半可気持ちで踊ってはきつと悔いが残るかもしれないと思い、練習から、真剣にやるようになりました。先輩に教えてもらい、少しずつ覚え、何とか覚えることが出来ました。本番では、めっちゃ、楽しく踊れることが出来ました。あのときのテンションや楽しさは、今でも忘れることができます。次踊るときは前以上のテンションで、場を盛り上げたいです。

【農大祭】では、自分たちで作った、野菜や花、果樹などを売り、地域の人たちと交流を深める行事です。私は過去何回も来たことがあるので、自分でやることをとても楽しみにしていました。私は食券を売るレジ係りをしました。高校の時アルバイトでレジの仕事をしていたので、それは、

得意でした。しかし、アルバイトのレジスタと少し違っていたので、少しやりにくかったです。それは農大ショップで慣れ、あわてることなく出来ました。やっている最中、少し問題がありましたので、来年の農大祭では問題なくこなしていきたいと思います。

これからは、自治会の会長になったので、自分の仕事に責任を持ち、一つ一つのことを確実にこなしていきたいです。多少のミスなどはあるかもしれませんがそこは、ほかの自治会メンバーと協力しながら助け合っていきたいです。

私の思う農業とこれからの農業について

高知県立農業大学校
園芸学科野菜専攻 一年

宮 川 恭 誓



私の両親は農業をやっており、一年を通してオクラ、ショウガ、キュウリを作っています。幼いころから親のする農業に触れてたり見たりして、農業をするのが当然のように思いましたが、中学生になってから進路のことを気にして初めて、将来農家以外

の選択肢を探してみました。その時はまだ決まらず近くの農業高等学校に行き、家のハウス以外で農業を体験、学習して農業も良いと思いましたが、高校にはつてから少し料理ができるようになって少し上手くなっていったので、調理や食品系の学校に行こうかと思いましたが、食品学校の調理科を受けましたが、受からなかった。私には農業しかないと思いき、担任の先生が前に言っていた農業大学校を受験して受かった。ここで農業についてもっと学ぼうと思いき、実践的な農業や初めての寮生活に期待して私の大学生活は始まりました。入学前は期待していたとはいき、寮の相部屋の人やどんな人か、勉強についていけるか、新しい友達ができるか、どんなプロジェクトをしたらいいか、怖い先輩はいないか、等不安は沢山ありましたが、先輩は優しく、相部屋の人や面白い人で、勉強も何とかついていけたり、友達もたくさんできて、プロジェクトも無事に決まり何とかやっていけそうです。

私たち一年生ももうすぐで一年がたつため、一年生の中で自治会役員を決めることになり今まであまり人前に出ようとしなかった私ですが、この大学校に入ってから少しずつ人前になることを努力していたのが良かったのか、自然と自治会に入りたいたいと思いき今は自治会で副会長をやっています。

これから、今まで以上に農業を学びながら自治会のメンバーとして、この学校が今まで以上のいい学校になるように努力していきたいです。

農大の一年間

高知県立農業大学校
園芸学科野菜専攻 一年

坂本 成美



私が、高知県立農業大学校に入学して、早一年が立とうとしています。農大に入学したのは、農業に興味があり、将来は、農業関係の仕事に就きたいと考えていたからです。入学する前、すごく不安だったのは、友達ができるかということと、全寮制についてです。高校のときから、入校案内を見て、男子ばかりで女子が少なかったのが、女子の友達ができるか本当に不安だったことを覚えています。いざ、入学すると、すぐ友達ができ、みんなと仲良くなることができました。寮生活もすっかり慣れました。学校の授業は、実習がメインで体力のない私はハウスでの作業が本当に疲れて大変だったと思っていました。農業に関わったことがほとんどなかったのが、ぜんぜん作業

もうまくできず、仕事を覚えることに必死でした。そして、自分の担当作物も決まり、今はプロジェクトを成功するように日々実習をがんばっています。

行事ですごく印象的だったのは「よさこい祭り」です。強制参加ということで、こういうのに興味なかった私はすごく嫌でした。練習もきついし、暑いし、本番休んでやろうかと思つたほどでした。ですが、友達と一緒に踊っているうちに、だんだん楽しくなってきた。本当に一生懸命楽しく踊ることができました。一番楽しかったのは、本番で、笑顔ですごく楽しめました。来年のよさこいも成功させたいと思いました。そして次に楽しいと感じたのは農大祭でした。農大祭では、学校で作った作物を外部の方などにも協力していただき販売をしたり、もちつきをしたり地域の人も交流を深めることができる行事です。私は食券の販売でレジ係でしたが、たくさんのお客さんが来てくださり、ずっと忙しくてとても充実していました。完売したのもたくさんあり大盛況のままで終わりました。農大祭では、不都合のこともあったので、次回もつとやりやすく改善していきたいと思っています。農大生活も残り少なくなってきました。もう少しの学校生活を有意義にする為、自治会に立候補し副会長の役職に就かせていただきました。自治会役員として学生の意見を尊重

し、楽しい学生生活となるよう支えて生きたいと思えます。これからも、初心を忘れず、日々向上を目標に頑張っていきたいと思えます。

自治会と農大生活について

高知県立農業大学校
園芸学科野菜専攻 一年

門田 侑



私がこの農大で主にナスの品種比較と茄子の天敵や病気になどを勉強しています。このプロジェクトに取り組んでいる理由は自分の家でナスを栽培しており、いずれは家の仕事を継ぎたいと思つていてこのプロジェクトにしました。最初は収穫の仕方でも栽培管理も全くわかりませんでした。が先生や先輩方が丁寧に教えてくださったおかげで大体的ことがわかってきました。今後の課題としては収量をあげることと、これから春先から終わりまでの栽培管理を勉強したいと思えます。また農大で取り組んでいるナスの面積は5aと現場の農家とは違い小規模なものなので日々現場の広さのことを考えながら作業をしていきたいと思えます。また3月の農家研修で実際に農家に行つて勉

強して実際の農家と農大ではどう違うのかを勉強したいです。そして、来年の1年生にもしつかりと教えていけるように日々努力したいと思えます。

寮生活では、毎日友達と一緒にいることができ退屈せず楽しむことができます。またサークル活動としてサッカーを放課後しています。先輩後輩関係なく楽しくサッカーができています。ぜひ来年度も続けていけたらと思います。

学校行事では、6月にはボーリング大会があり、先輩方と親睦を深めることができました。8月によさこいがありました。練習は2か月間くらいあり、とてもしんどく時々飽きるくらい踊っていました。しかし実際本番を迎え踊ってみるととても楽しくすごくいい思い出になりました。10月には四国農学連のスポーツ大会がありました。私はバレーボールを選択していました。Bチームとして出させていただき、あまりいい結果は出せませんでした。がすごく満足できる内容でした。また農大祭では様々な出し物を計画して実際にやってみてとてもいい経験になりました。自治会として大変だとは思いますがよさこい、農大祭などみんなが協力してがんばっていききたいと思えます。農大に入校して早くも1年が過ぎようとしています。1日1日大事にしてがんばっていききたいと思えます。

農業にかかわりたいと思っただきっかけ

高知県立農業大学校
園芸学科野菜専攻 一年



佐藤 亮 太

私の家は専業農家です。最初は、農業をしようとは思っていませんでした。しかし、農業をやっている両親や祖父の姿を見てみると次第に自分も農業をしてみようという気持ちになってきました。そして高校も農業に関わる学校に行きました。しかし、知識や技術は全くなくもつと農業の勉強をして農業をやろうと思いましたが、そして農業大学校でもつと農業の知識を高めようと思えました。農大入学時は、とても不安でした。自分達で野菜などを栽培できるのか。色々な迷いもありましたが、先輩方や先生方にいろいろ教わり迷いも少なくなってきました。9月ごろからは、プロジェクト作物の栽培も始まりました。最初は何もわからないところからのスタート。何をしたらいいのかわかりませんでした。でも同じ班の仲間たちと協力し頑張っています。作業にもだいぶ慣れてきて来ました。これからプロジェクトも忙しくなると思いますが頑張っていこうと思います。

また高知農大は一年時は全寮制です。

初め周りは知らない人ばかりでした。しかし次第に学校や寮生活にも慣れてきました。そして友達もたくさんできました。寮生活の中で、協力、助け合いが大事だと思えました。今は友達と楽しい寮生活を送っています。

今年から、新自治会になりました。農大では色々な行事があります。自治会主体で行う行事もあると思います。行事にも力を入れて頑張りたいです。また自治会になったからには自治会役員のみならず協力し頑張っていこうと思います。

またもう少しで自分たちは二年になります。今はまだ教えてもらいながらですが、2年になれば、逆に教える立場にもなります。恥じないように頑張りたいです。

今はまだ未熟ですが、農大卒業までには、自分が大きく成長できたいなあと思っています。そしていつか農業をできるよくなつたらいいなあと思っています。これからも学校生活で、勉強に実習をがんばっていこうと思います。

農業に対する想いや学校生活に関すること

高知県立農業大学校
園芸学科花き専攻 一年



宮崎 貴 弘

幼い頃に豊かな自然の中で農業を営む祖父の家をよく訪れていました。自然の溢れる場所で祖父の農業を手伝ったり、自然の中で遊んだりしていました。そんな私は次第に農業に対し魅力を感じるようになりました。祖父の住む家は、とても空気が澄み、川の流れる音や、森の風に揺れる音が私を癒してくれました。その中で行う祖父との農業が何よりも好きでした。幼いながらに将来は祖父と一緒に農業を営んでいきたいと思うようになりました。

私は年を重ねるにつれ祖父の家へ行く機会が減り農業への想いも薄くなっていきました。けれど中学生の時、高校進路に悩んでいた私に父親から祖父の農業について話を聞きました。話の内容は、祖父の後を継いでもらいたいという事でした。私は今までの事を思い返りました。自然がたくさんある中で農業を行う祖父の姿、そして自分が農業に魅力を感じた事。私は農業高校に通う事にし、将来は祖父の後を継ぎ農家として生きる事を決意しました。立派な農家になる事を夢にしました。その夢を叶えるため農業大学校に進学しました。

本校では実際に自らが作物を栽培し、その生態や栽培技術、知識をしっかりと身に付けることができます。農業に必要な資格も習得することができます。私は日々の実習や勉学に励み精進していきたいです。学校の皆

は明るく面白いので毎日を楽しく送れています。又、自治会の役員として会長や周りの役員の力になれるように頑張っていきたいです。よきこい祭りや、地域の交流を深めるための農大祭は皆にとって大イベントなので特に力を入れています。今年から入学する新入生のためのボーリング大会も楽しく盛り上がりそうです。皆で力を合わせたいです。皆で皆のたのみの学校を築けたら良いなと思います。私は今でも農業が大好きです。本校で夢を叶えるための第一歩にしたいです。学校の皆や四国の農大の人達とも仲良く、地域の絆もより一層に深めていきたいです。

農大へ入校して

高知県立農業大学校
園芸学科果樹専攻 一年



寺下 眞 夕

高知県立農業大学校へ入学してから一年が経とうとしています。私は将来農業に関連した仕事に就こうと思いいこの学校を選びました。入学した当初は専門的な知識や技術についていけるか不安でした。また、一年間寮制ということもあり、コミュニ

ケーションをとるのが苦手な私にとって悩みの種でもありました。

しかし学校生活が始まると少しずつ知識も自然と身についてくるようになりまし。私の専攻している果樹科の実習は体力がいり大変ですが毎日がいい勉強になり楽しんでます。不安だった寮での生活は悩んでいたのが嘘だったかのように、今では明るく愉快な仲間ができ、とても充実しています。農大ではたくさん行事があり、夏はよさこい祭りがありました。踊りを一から先輩方に教えてもらいました。踊りが苦手だった私は居残り練習をしていましたが、その練習にも先輩方は一生懸命教えてくれ、本番では何とか踊ることができました。先輩がとても盛り上げてくれたので、よい思い出になりました。秋のスポーツ大会では、卓球を選択していました。二年生にとって最後の大会だったのでいい結果を残せるように応援していました。補欠でしたが試合に出させてもらい頑張りました。しかし、良い結果にならず、悔しい思いもしました。

また、農大祭では学校内にたくさんのお店が並び、スタートしてから大勢のお客様に足を運んでもらいました。自分たちの手で作り上げた商品を買ってもらい喜びを味わえ、とても幸せでした。

今年からは自治会にも入り、これからの学校生活を盛り上げていけるように頑張ります。

農大で過ごしてきた一年

高知県立農業大学校
畜産学科 一年

梅木 晴 菜



4月に高知県立農業大学校に入学して早くも一年たち、あつという間に過ぎ去ってきました。その一年間を振り返ってみようと思います。

ここに入学する前は不安でいっぱい、特に全寮制だと聞かされたときは、うまく皆とやっていけるんだろうか：と心配しました。しかし、そんな私を寮の皆は明るく接してくれ支えてくれ、お互いに理解し会える仲にしてくれました。今となっては寮生活は充実満載!!大切な仲間たちに出会えて感謝しています。

寮生活でうまくやっていく中で、学校での生活でも楽しさやいろいろな経験・発見ができました。まず毎年夏にある「よさこい祭り」に向けての練習。私自身、踊る事に関してはものすごく好きだったので、めちゃくちゃ楽しみにしていました。暑い中、先輩たちと一緒に踊って大変な日々もありましたが、協力し合って本番で発揮できたときの感激は忘れない思い深いものになりました。他、農

大祭やスポーツ大会などの行事も体験しましたが人との接し方や、協調が一番大事なんだと感じました。ただ勝手にやればいいのかではなく、皆とともに協力し合い助け合う心も大切だと思いました。

農大で過ごせる時間はあと一年しかないですが、去年の先輩たちの跡を継ぎ、よりもっと良い学校生活を送れるように、残り少ないなかで皆の楽しく充実した日々を過ごせたらいいなあと考えています。まだ分からないこともたくさんあるし、諦めない!気持ちを忘れずに努力し、頑張っていきたいと思います。

農大での一年間を振り返って

香川県立農業大学校
花き園芸コース 一年

大山 竜 司



「野菜栽培だけじゃなく、あらゆる分野で精通した農家になれ。」祖父が口癖のように言っていた言葉です。私はこの言葉を実行するべく、大学で花き園芸コースを選択して草花の知識を身につけることにしました。今まで無縁であった草花の世界に飛び込み、最初は分からないことが多かったです。カー

ネーションの整芽や様々な花の調整の仕方、収穫方法、組花作りなどたくさんあります。特に組花作りは今でも苦手な作業のひとつです。色の組み合わせや組み方を考えてるだけで頭が痛くなってきました。



この大学の实習で気に入っていることが多いです。一つが実習の多いことです。私は座学があまり得

意な方ではなく、どちらかと言うと体を動かす方が好きです。そんな私にはこの実習の多さはとても嬉しく気に入っております。二つ目は、学生が中心となって作業を行うことです。高校では先生の補助的な作業が多く、先生の指示通りに行っていました。しかし、この大学は、学生が作業の中心となり、より本格的な技術を身につけることができます。ここも大変気に入っております。花き園芸コースの一年生は五人しかおらず、一人一人の作業割合はおのずと高くなっております。しかし、個性あふれる一年メンバー、頼れる先輩方や先生方のおかげでどんな作業もスムーズに行うことができます。

農大に入学してからは様々な行事がありました。その中で一番印象に残っているのが「農大ふれあい市」です。販売する品物を自分たちで決めたり、食材の調達から価格設定まで全て決めました。2年生が鉢花や苗ものを販売して、一年生が食べ物の販売をしました。今年は薩摩汁とサツマイモご飯を作りましたが、当日は少し残念な天候になってしまい、売り上げは悪かったです。が食べてくれた人たちに「おいしい」と言われ、頑張った甲斐があったと思えました。

来年から私も二年生になり、後輩をもつ身になります。果たして自分が先輩たちのように後輩たちを引っ張っていくことができるのかと、正直言うとう不安です。学生自治会にも席を置き、学生自治会副会長として活動するこ

とになります。来年からは上の立場になりいろんな責任や義務を背負います。しかし、弱気にならずに自分が後輩を、農大を引っ張っていくことをしっかりと意識して、勉学に励みたいと思います。

今現在の日本の情勢を鑑みた時、日本の農業は非常に大きな変革を迎えています。T P P交渉、製油価格の高騰など、私たちの身を揺がす大きな問題にいくつも直面しています。最後に大役を仰せつかりまして非常に光栄であります。又、日本の農業に光明が再び差すことを切に願ひこれで終わりたいと思います。ありがとうございます。

みんなと協力した一年

香川県立農業大学校
果樹園芸コース 一年

江村 兼一



私が農業大学校に入学して早くも一年が過ぎようとしています。思い返せば四月の入学式がつい昨日のことに感じられます。

私が農業を志そうと思ったのは、家が八百屋を営んでおり、おいしい野菜

と果物が常に身近にあったからではないでしょうか。中学に入り進路を決める時、おいしい野菜や果物がどのように作られているのか興味を持ち農業高校へ進学しました。

しかし、入学当初は興味本位で受けていた授業も、徐々に専門的なことを学ぶにつれて農業が楽しく感じられ、農業のことをもっと深く知りたいと思



うようになり、農業大学校の進学を決めました。

高校では果樹を専攻していましたが、農大では野菜園芸を学んでみたいと思い選択しました。結果は果樹コースでした。野菜園芸コースに入れなかったことで最初は落ち込みましたが、そんな気持ちを吹き飛ばしてくれたのは、同じコースのメンバーや先生方でした。初対面の私に優しく話してくれたり、共通の趣味で会話をしてくれました。

十一月に行われた農大ふれあい市では出し物を相談していました。提案の中にマロングラッセをしないかと同じコース生が言いました。始めはみんなもやる気になっていましたが、ある理由で作ることが困難になってしまいました。

そのため、メンバーの中には不満を持つ者も出てきました。私は高校時代から格別の農作物を使って手のこった加工品を作ってみたくて思っていました。もしこのままマロングラッセの話がないことになったら後悔すると思います。企画の先頭だつて仕切ることになりました。主張したその日から、ネットでレシピや材料、道具を調べて揃えることができました。けれどもレシピの内容を見て、とても一人でできることはないと感じました。そこでみんなに作業の手伝いを頼もうと思いましたが、不満を持っているメンバーがほとんどなのに手伝いに参加してくれないんじゃないのかなと不安になりました。

た。不安になつてもしかたないので思
い切つてみんなに聞いてみると、全員
「いいよ」といつてくれました。みんな
の返事を聞いて、不安になつていた自
分がバカらしく思えました。

マロングラッセは、五日間シロップ漬
けにしたものです。そのため始めの仕
込み作業は忙しく、みんなバタバタし
ていました。けれども自分一人ではな
かつたので、きれいな形でいいものが
生産できました。販売に出すと開始
三十分で完売しました。みんなと喜び
ながら、あのととき主張して本当によ
かつた心の底から思えました。

私はこの一年で多くのことを学びま
した。けれどもそれは、自分一人で学
ぶことは到底できませんでした。来年
は仲間たちと一致団結して学校生活に
励み、行事、実習、学業でさらなる
結果を目指したいと思います。

農業大学校での 一年を振り返って

香川県立農業大学校
野菜園芸コース 一年

竹 本 護



私が農業大学校に入学してから、は
や一年が経とうとしています。入学当

初は、たくさんの方の不安でいっぱい
でした。農業高校出身でない私が、農業高
校出身の人に授業・農場実習について
いけるのか、友達は出来るのか、とい
つた皆さんの不安を抱えながら入学式
を迎えました。しかし、日が経つにつ
れ友達も出来、仲間と協力し合いな
がら少しずつではありますが農場実習
にもついていけるようになりました。

授業では、今まで生きてきた中で一度
も耳にしたことがない単語ばかりで正
直、授業についていくことで精一杯で
した。農場実習では、農業の大変さ
を感じさせられました。私の家には田
んぼがありますが、あまり親の手伝い
をしたことはありませんでした。その
せいか私の考える農業とは、種をま
き、数カ月待つていれば作物が出来
るだろうという甘い考えでした。しか
し、農業大学校に入学して農場実習
をしてみると、私の考える農業とは全
く違うものでした。定植をするとい
つた簡単な作業にしても、ただ苗を植
えるのではなく一つ一つの苗を細かく
株間を図り定植していく。このように
農業は手間がかかります。とても大変な
作業だと感じさせられました。しかし、
苦勞して作った野菜を収穫して、それ
を直売で売り、お客さんが笑顔で野菜
を買ってくれる姿を見ると、「今まで苦
勞した甲斐があつたな。もつとお客さ
んを笑顔に出来る野菜をつくりた
い。」という気持ちになりました。こ
のように野菜を食べてもらつて人を笑
顔にできる。それが農業の素晴らしさ

なのではないでしょうか。

また、農業大学校に入学してから一
年が経とうとしています。実によく
の行事がありました。その中でも一番
思い出深いのは、「四国農学連スポー
ツ大会」です。私はバドミントン部に
所属し、一年生ながら選手として試合
に出させて頂きました。しかし、結果
は2回戦敗退。私が先輩たちの足を
引つ張つてしまい、不甲斐ない結果に
悔しさでいっぱいです。それと共に仲
間と協力することの大切さを改めて感
じさせられた大会でもありました。来
年は選手としてもう一度この舞台に
戻つて、優勝を目標に日々の練習に取
り組みたいと思います。また、十二
月には校内スポーツ大会がありました。
種目はバドミントンで結果はベスト4
でした。普段交流のない先輩方とふれ
あう時間がとても新鮮で、とてもいい
思い出になりました。

今年一年、私はたくさんの方の学
び、人としても成長することができま
した。来年は私も先輩になります。

先輩としての自覚を持ち、私たちが先
輩方にたくさんの方を教えて貰つた
ように、次は私たちが一年生をサポー
トしていきたいと考えています。そし
て、私自身も社会に出て必要とされ
る人間になれるよう、高校時代のサツ
カー部の恩師の言葉「感謝・謙虚」
の気持ちを胸に、農業のことはもちろ
んのこと忍耐力・精神力を鍛えて行
きたいと思っています。学校生活も残す
ころ後一年、仲間たちと楽しい学校生

活を送りたいと思います。



農大での一年間

香川県立農業大学校
造園緑化コース 一年

富 田 洋 平



私が農業大学校に入学してから、
一年が過ぎようとしています。

「庭師になりたい」この気持ちが芽生えたのは高校時代のことです。理由は、庭の木の枝が、時期が経つにつれ、徒長枝が増えてきて庭が荒れたように見えるのが嫌いだったからです。そのたびに庭師さんが来て庭を綺麗にしてくれました。綺麗になった庭は、見ていて気持ち良かったです。高校でも造園を習いましたが、「庭師になるには知識も技術も全然足りない」と思っていました。その気持ちを理由に農業大学校の入学試験を受けました。試験に落ちたときは庭師になるのは諦めようと思っていたので、ひやひやしました。合格が決まったときは、本当にうれしかったです。農大に入学し、造園部門の先生、先輩のご指導の下、自分の造園の知識、技術を磨き、仲間とともに助け合いながらたくさん作業をこなし、経験を積みました。

夏休みに近づくにつれ、造園の三級技能士検定の勉強、実習をする時間が増えていきました。恥ずかしながら高校時代、私はこの検定を受け、学科のみ合格しました。実技も受けたのですが実技に含まれる「葉素試験(樹木の葉だけをみて何の木の葉かを答える試験)」に落ちたのです。「今度こそ」という強い気持ちを持って練習しました。高校時代に練習していたこともあつてか、スムーズに作業をすることができました。ですが、葉素試験の勉強にはやはり苦戦しました。「葉っぱなんてどれも同じに見えるけどな」と思っていました。しかし、葉素試験の

授業を受けて、その考えは変わりました。葉っぱの厚み、鋸葉、つやなどの特徴を良く見れば判断できることがわかりました。とは言っても、試験に出題される種類は六十種類の中から十種類。つまり六十種類の葉っぱの特徴を覚えなくてはなりません。覚えて、忘れて、また覚えて・・・と何回も反復してなんとか覚えることができませんでした。この文章を書いている今となってはほとんど忘れていますが(笑)。そんなこんなで試験を受けました。試験当日はとても暑く、シャツまでびっしょり汗で濡れていました。しかし、



農業大高校に入って学んだこと

たくさん練習してきたこともあつて効率良く作業できました。葉素試験も大体の問題がわかりました。勉強はしてみるのがですね。そして見事合格することができました。とてもうれしかったことを今でも覚えています。農大に入学してから今まで、たくさん学ぶことができました。ここで、二年生になったときの抱負を書きたいと思います。二年生になったら、造園技能士二級の試験があります。先輩方が口をそろえて「難しい」と言っていたので、気合を入れて頑張つて、合格したいです。あとは、健康に気をつけて一年間頑張りたいです。以上で終わります。



上野 真太郎

徳島県立農林水産総合技術支援センター
農業大高校二年次生アグリビジネスコース

私の家は非農家です。農業に関わったこともなければどういうものかもどう営むものかも知りませんでした。そんななか、農大に入学してやりたいことも目標もなくなつただけで過ごしてしました。しかし、実習などを通して農業の

楽しさや苦労などを知りました。週3回開市していた直売所では、お客様の質問に少しずつ答えられたりすることができ自分の成長を感じることもできました。夏は太陽の熱い光の中で、冬は木枯らしの寒い風が吹く中で友達と一緒に作業をすることも凄く楽しかったです。



2年次生になると自分のプロジェクト活動でより農業について深く知ることが必要になり農業初心者私にはとても難しいことでした。朝早くから現場に出たり、真夏のハウス内で作業も

しました。そんな時でも、友達や後輩、先生方の支援のおかげで作業効率も上がり進めることができました。校外では研修などがあり研修先の方々も優しく楽しく研修をすることができました。一番大きな経験として模擬会社「そらそうじゃ」の設立に伴い、出店をして全て自分達で運営していくということです。実践的な取り組みを通じて2次3次産業を経験することで栽培後の苦勞を知りお客様と接し、いろいろな意見を聞くことで見えてたこともあり、貴重な体験をすることができました。

今後は、農業に関わることによってその良さや魅力を伝え、地域の農業、日本の農業が少しでも力を取り戻せるようにがんばっていききたいです。

阿波の食文化復活に向けて

徳島県立農林水産総合技術支援センター
農業大学校二年次生アグリビジネスコース

湯 浅 愛 美



徳島県は関西方面に近く商業が盛んであり、それにより農業も盛んに行われています。そのため、生産効率が高く収益につながる作物に移行する傾向があるのも徳島の農業の大きな特徴で

す。その結果、農業知識や技術の向上など経営面で成長したが、その反面、その時売れる作物しか栽培しなかつたため、徳島古来からあつた作物は廃れ、荒廃してゆき種子保存のされぬまま無くなってきました。今では、文献に記録があるにもかかわらず種子を発見するのが困難な作物から、「名東大根」のように種子の絶滅してしまつた作物もわかつてきています。都道府県地方野菜大全によると、徳島県の地域伝統野菜に公認されている作物は「シロウリの阿波みどり」「大根の阿波晩成」等の四種類と全国的にも数が少ないという現状にあります。

このままでは徳島の伝統野菜はほとんど廃れていくことに危機感を感じた私は、徳島の中でも中山間地ならば、まだ発見されていない伝統野菜が眠っているのでは考えました。そして、徳島と高知の県境である木頭村に、地元の高知の農家と阿波伝統野菜研究会の方々とフィールドワークに行きました。その結果、木頭村ではジャガイモ等3種類を発見することが出来ました。しかし、これらの作物には正式な品種名はなくまた、栽培歴も存在しません。そのためその地域では食されているが、これを売り物にするには、栽培歴の確定やPR活動、利用方法についての検討などがあり、長い道のりを感じました。しかし私は徳島の伝統野菜を復興させるため、そのうちのひとつ「美馬太キュウリ」の伝統野菜登録を目指して卒業研究に取り組みう

と考えました。

この研究でのポイントは2つ。まず、「美馬太キュウリ」の栽培方法を確立するために、キュウリの栽培の基本である仕立て方での生育と収量の差があるか、また生育過程での栽培の注意点などを記録すること。栽培試験でできたキュウリをどのような販売方法で販売するのが有効か、消費者に古来の野菜の魅力はどうPRするかである。この結果、仕立て方には果実の収量に大きな差がでました。また、PR方



法ではキュウリのレシピや生態などを詳細を紹介するパネルの作成を行い、新しいニーズの開拓も行いました。県内に眠る新たな伝統野菜を探すためにフィールドワークも実施したいと考えています。

伝統野菜は地域の文化そのものです。その野菜が消えることはその地域の文化が消えることということです。それを今の状態で食い止め、徳島の伝統野菜も京野菜やなにわ野菜のようにたくさんの人々に愛されるそんな野菜になるように活動を続けていきたいです。

農業への想い

徳島県立農林水産総合技術支援センター
農業大学校一年次生地域資源活用コース

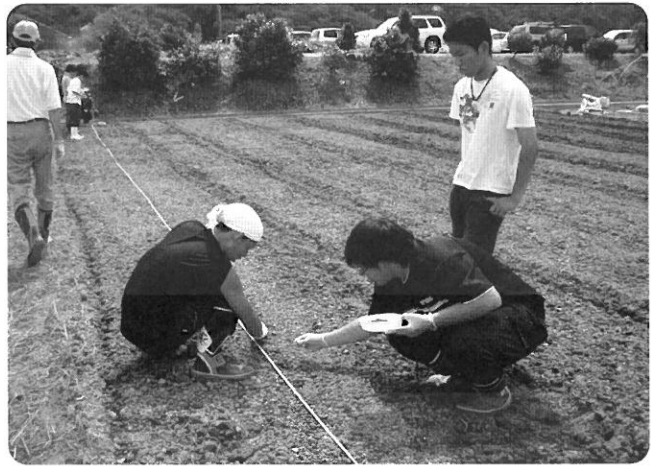
岡 下 魁



私が農業に対し常に考えていることはいかに楽しく、ラクに仕事をやり遂げるかということです。

農業人口が減っているその一番の理由として農作業時に体がきついことだと思えます。どのような農作業するうえででも体力的にしんどいところや、一人で延々と同じことをする精神的なきつさもあると思われれます。それらがい

かに楽しく、ラクに農作業をするかというところが将来の農業へつなげていくカギになるといえます。



どんな農業経営者でも自ら進んでキツイ肉休労働をする人はいないと思います。やりたくなくても生活のためやむを得なくやっています。私の家では水稲を大規模に営んでいます。毎年夏の稲刈り時期になると、私や父は体重が5キロほど落ちてしまいます。見た目もとてもやせ細って、そんな姿を見て専業で農業をやろうと思う人は少ないでしょう。だからそれらを改善できる環境や方法を探し考えるためこの農大に入りました。

機械化により肉休労働はラクになる部分もあります。しかし機械のコストが高く農業の収入だけでは買えないよ

うなものもあります。ほとんどの農家では、大型機械で半時間でおわる仕事を2時間3時間もかけています。

コストをさげる方法は必ずあると思います。誰もが入りやすい農作業の環境を作るには農業機械メーカーなどと農業者が協力し問題を解決すべきであろうと思います。

将来、農業に取り組むときにいかにコストを低減するかに挑戦していきたいと考えています。

これからの農業のイメージとは

徳島県立農林水産総合技術支援センター
農業大学校 一年次生 生産技術コース

川野 昌也



私は専業農家を営む家庭に長男として生まれた。幼い頃から親父と共に畑へ赴き牛蒡やホウレン草などの野菜を生産、出荷してきた。今では将来農家を継いで家族を養えたいと思っている。しかし、この思いを抱くまでは「農業なんかしたくない、好きな仕事をした。」という考えで過ごしてきた時期もあった。その頃に親父と対立していた。高校3年生の頃に進路を決めるにあたって親父と話していくうちに自分が家で農業をしていく

ことが大切なことにやっと気がついた。今までの自分には、「農業ってしんどい。」というマイナスのイメージしかなかった。このような意見を持った人も少なからずいると思う。徳島県の上勝町株式会社というところで研修で農家にお世話になったとき非常に興味深い話を聞くことが出来た。「これからの農業は面白みのある農業にするべきだ！」この言葉にとっても共感することができた。マイナスのイメージを持つていたあのころ農業の何が面白いのか、さっぱりわからなかった。「暑い日に、草を抜かないといけない。」「休みの日をとることが出来ない。」「マイナスのイメージしかない。これを取り除くことさえ出来れば農業をより多くの人が経営していると思う。」



私としては直売所を営農者の基盤とすることがこれからの日本には必要だと思う。まず初めに、誰にでも手の付けやすいものにする。農業は広大な土地がなければ営農できないように思われがちだが、実際そうではない。50aほどの土地があれば、それぞれに薬物、根菜、永年作物と振り分けることでうまく畑を回すことも可能である。こういったことも知識のある人から教わるのが大事だと思う。次に、農林水産どれにも言えることだが自分で生産した物に価格を付けることができないということだ。工業製品は生産者が価格を付けることができるが、農業にはそれができない。日本は今までそういったやり方でやってきました。それがよくないと思う。価格設定の権利を生産者に委ねることにより営農者も増加すると思う。生産者の利益が上がれば生活を豊かに暮らすことができ今までにあった農業に対するイメージ改革に繋がると思う。

これからの農業に対するイメージ向上や意識改革を進め、面白みのある農業を実現したいと思う。こういった直販システムが定着することは難しいと思うが、ぜひ営農していく自分たちと共に国や県の行政も頑張りたいと思う。私は将来、直売所を経営したいと思っている。価格の決められる直売所はこれからの農業をバックアップするものだと思う。将来には、農業が素晴らしいイメージで広まり全国での営農者の増加を望んでいる。